

区分 医療・福祉分野

(サブタイトル)ICT技術を活用し障害者の自立・就労を支援する「アシスティブテクノロジーアドバイザー」の育成

(開発した訓練の特徴等)

訓練の内容: 障害者の就労支援に必要な知識を「障害の理解」「テクノロジーの理解」「ICTに関する支援技術」「困難別の支援技術」「場面別の支援技術」の5分野に整理し、eラーニングと対面研修などの学習手法をブレンドして、知識の習得と現場の実践方法を体験的に学ぶことができる。
訓練の対象となる業種・職種等: 医療・福祉分野の従事者や障害者の就労支援に関心を有する社会人等で、最新の支援技術について理解し、支援技術の実践力を得たい方

(受講のメリット)

- 遠隔講義で最新の支援技術の知識を学び、対面研修で実践を体験的に学ぶことができる。
- オンラインで障害者の困難を仮想体験することで、支援技術の意義が理解できる。



(実施した時の環境等)

訓練の内容: e-ラーニングによる遠隔講義、ハイブリッドによる2日間の対面研修、オンラインディスカッション、理解度テスト、課題提出。
募集期間 : 2020年7月13日 ~7月26日
応募人数 : 34人
受講人数 : 30人(検討委員の選考により受講生を決定)
受講日時 : 2020年8月上旬 ~ 2021年2月10日
対面研修は2日間×2回実施
受講料 無償で実施(受講に必要な機材費・通信費、交通費は受講生負担)
社会人受講生のための配慮:
• 対面研修の講義を録画し、欠席者向けに事業サイトで1週間程度配信
• 受講生の要望により、教材の補足動画を作成しYouTubeに限定公開

区分 医療・福祉分野

(訓練を実施する上で注意する点)

訓練の内容：eラーニングの学習の進捗度を常時把握し、遅れが見られる受講生に対する個別サポート(声掛け)の実施。

訓練時間数：総時間が120時間のため、分野ごとの分割実施も検討する。

受講生のコミュニケーション：非同期のオンラインコミュニケーションは停滞しがちなので、ファシリテータを立てて誘導する。

(訓練を実施する上で推奨される取り組み事例)

- ビデオ会議に不慣れな受講生向けに事前接続テストと基本操作方法のレクチャーを複数回実施したため、研修が円滑に運用できた。
- ビデオ会議の機能を利用することで、遠隔地の受講生がオンラインでグループを組み、リアルタイムで障害体験を経験することができた。



(受講生等からの声)

- 全国の受講生の意識が高く、とても刺激になり、この出会いは私にとってとても貴重な出会いとなりました。
- Webでも大変勉強になりましたが、コロナ禍で仕方ないですが実技等は対面でやりたかったです。
- 実技の繰り返しこそが身になるなど、Web研修を通して改めて感じました。
- オンラインでも十分、研修としての効果はあったと感じました。 ・ 達成感のある時間を過ごすことができました。

(受託事業者) **有限会社ケー・アンド・エフ コンピュータサービス**

(詳細・問い合わせ先)

厚生労働省HP: URL https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaiatsu/program_development_text.html#mw

厚生労働省人材開発統括官付参事官室(人材開発政策担当)政策企画室事業係 03-5253-1111(内線5648)